

東西宗教交流学会・第三回学術大会記録について

本 多 正 昭

本誌(四・五月合併号)に紹介されている講演と討論は、「東西宗教交流学会」第三回学術大会の記録である。本学会は、一九八〇年六月、ハワイ大学で開催された第一回 East-West Religions in Encounter 国際学会に刺激され、土居真俊氏の肝入りで設立されたものである。第一回学術大会(滝沢克己氏の講演とこれをめぐる討論)は、一九八二年七月二六日から三日間、第二回目(星野元豊氏の講演と討論)は、翌八三年七月二五日から何れも三日間、京都市内・関西セミナーハウスで行われた。会員は総員三〇名ほどのミニ学会であり、発題者は原則として一人、東西宗教、とくに仏教側とキリスト教側との交流を学問的な conceptualization を通して遂行しようとする、きわめてユニークな学会である。この第三回学術大会(むしろ小会というべきであろうが、ここでは前二回の慣用に従う)は、一九八四年七月二三日から三日間、同じ会場で催された。一日目の夜は常盤義伸氏が、第二回目の East-West Religions in Encounter 国際学会(八四年一月三日から十一日まで、ハワイのロア・カレッジで開催)における公開討論(Theological

Encounter on Suffering) について報告。二日目は、八木誠一氏が二回にわたって自著『パウロ・親鸞・イエス・禅』(法蔵選書22)中の、「イエスと禅」の部分について講演。これをめぐる討論は三日目の朝まで延長となった。本誌は、この第三回学術大会(三日間)の記録である。この記録作成は私に委託されたが、やはり紙数の制限もあり、テープから起こした生原稿を約四分の一に短縮しなければならなかった。思い切って切り捨てながら繋いでゆく作業は、容易ならぬ業であったが、原則として講演と討論の内容的連関を重視し、講演・討論とも他の多くの部分を省くことにした。ただし、常盤氏の講演記録は、初めの約束により氏自身にまとめていただいたものを、全部そのまま掲載し、その代り石田慶和氏司会の討論の部を割愛、八木氏のそれは、氏が校正したものを私の方で適当に抜粋したが、「まとも」の部分の発題は、心ならずも大部分割愛してしまった。目次の体裁や講演者以外の発言内容の取捨選択など、その責任はすべて私にあるが、以上をもってしても、最初指定された紙数を大幅に超過して

しまった。この点については主幹・秋月氏の御了解を多くにお願いしたこと、また最後の原稿浄書は、中野信子女史（西日本比較思想研究会会員）のボランティアに依ったことを付言し、それぞれに厚く感謝の意を表したい。（残念ながら、発言者に直接校正をお願いすることはできなかったが、万一明らかなきミスでもあれば、御教示いただきたいと思う）。

なお、本学会の会員は、一九八四年度現在、次の通りである（ABC順。第三回大会参加者の氏名には・印。新役員には傍線を付した）。

秋月龍珉著 (三部作)

「正法眼蔵」を読む

二二八頁 一、二〇〇円

「正法眼蔵」の知恵



二三四頁 一、二〇〇円

「正法眼蔵」の決論

(未刊)

- 秋月龍珉、M・オーガスティン、坂東性純、L・ペリーニ、土居真俊（会長）、藤吉慈海、J・ハイジック、本多正昭、宝積玄承、兵藤正之助、一島正真、石田慶和、石脇慶総、木村公一、岸英司、小堀南嶺、熊沢義宣、松本高志、武藤一雄、P・ネメンエギ、西村恵信、奥村一郎、小野寺功、武田龍精、玉城康四郎、田村芳郎、寺川俊昭、N・テレ、常盤義伸、J・ヴァン・ブラフト、藪本忠一、八木誠一、八木洋一、以上三三名（内、出席者十八名）

発行所 〒601京都市南区西九条北ノ内町二一

PHP 研究所